

生産者の声

はじめてます、スマート農業！

神奈川県内で、施設内の環境を「見える化」している生産者に伺いました。

キュウリ農家 大磯町・鈴木さん

肌で感じた温度・湿度と
実測値が、かなり違った！



- 「環境を見える化」すると、足りない物がわかってくる。
- CO₂発生機を導入して、キュウリの収量・品質が向上した。
- 次のステップは、収量と労働力の兼ね合いを考えながら活用していくこと。

トマト農家 厚木市・西山さん



リスクを減らし、
先を見据えた管理ができる

- 環境データを数値化することによって、トマトの育成に合った環境にすることができる。
- 育成が予想できるようになり、外出もやすくなった。

トマト・キュウリ農家 海老名市・石川さん

環境の計測により、今まで
見ていなかったものが見えてきた



- 始めは「見える化」の前にやるかと思っていましたが、先進地を見学して考えが変わった。
- データを基に天窗の開け方を変えて、病気を減らすことができた。
- 温度、湿度、CO₂濃度を気にして管理をするようになり、今後が楽しみ。

トマト農家 藤沢市・井出さん



改良点を見つけるのに
有効なツールだと思う

- 日射量と共に、施設内の環境変化をリアルタイムで確認できることがメリット。
- 遠隔地からも確認でき、複数の施設のデータを比較して、施設ごとの管理ができる。

トマト・メロン農家 厚木市・秋山さん

記録が残るので、
経験に数値が結びつき、
将来の
栽培に生かす基礎になる



- 「侵入者・低温・高温」の警報やカメラで確認できるので、リスク管理に役立つと思い導入した。
- 積算温度の見直しや、こまめな温度・湿度と果実写真のモニタリングは理想の果実に近づけるのに役立つ。

トマト農家 寒川町・菊地さん

リアルタイムに計測する
ことで収量・品質が安定した



- 目指すトマト栽培は、品質の良い果実がコンスタントに収穫できること。
- 以前は時期により収量の差があったが、3～4年かけて施設内の温度やCO₂濃度等の変化を見ながら換気の仕方やCO₂施用時間等を修正した結果、収量がコンスタントに採れるようになった。

発行：かながわスマート農業普及推進研究会

かながわスマート農業普及推進研究会（構成員：県、農業団体、有識者、農業者、農業資材販売業者）では、限られた施設面積でも自立的な経営ができる、都市型スマート農業の実現に向けた検討・普及推進を行っています。

かながわのスマート農業の推進について
PDF版をご覧になりたい方はこちらから
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f536249/>

